

康永三年三月日

惣長吏權少僧都法眼和尚位

院主權律師法橋上人位

大勸進權律師

大先達權律師

修理別當

上座法眼和尚位

寺主

都維那法眼

神主惣行事

大宮司 朝臣

(本文書大宮司の次に建部としたるものあれども、その二字は後人の記入なること原本を見て知るべし。)

七月六日。淨詔、鹿島郡永光寺に羽咋郡湊北方の田地を寄進す。

【永光寺文書】 鹿島郡

三二四

奉寄進 能登國羽咋湊北方内田地事

合百町 在所小原内

右於被田田地者、淨詔重代相傳地也。而當國永光寺佛殿本尊爲燈油、眼、永代所奉寄進、仍爲後證寄進之狀如件。

康永三年七月六日

(三階七郎太郎家秀) 比丘淨詔 在判

(羽咋郡湊郷の名は正平四年三月十五日の條にも見ゆ。又永光寺舊記に據るに、酒井十郎章長法名西願の曾孫に尼性詔三階池崎後室ありて、性詔の長子は淨詔三階七郎、次子は良詔奥州黒石正法寺とせり。)

七月。妙法院門跡亮性法親王、その管領する石川郡押野莊・能美郡南北白江莊等の文券紛失したるを以て、官符を下して證明せられんことを奏請せしめ給ふ。

【妙法院文書】 山城

三二五

無品親王廳解

(申請)

(天教)

(事)

(用)

承宣

令

妙法院門跡本尊

教

院

院

院

院

院

等、全永代領掌狀
一、新日吉社檢校職事

(中略)

加賀國押野庄

(中略)

加賀國南北白江庄

(中略)

右謹考舊貫、依得門跡之傳持、被下官符宣者、累代之芳躅、明時之通規也。爰當門跡者、惠亮和尚之賢跡、山中無雙之名區也。仍二品尊性親王中興門跡以來、至于性守僧正、相續管領訖。然性守僧正、以山洛房舍眞俗之遺跡、去正中二年二月十日讓與尊澄親王之刻、以次第附屬之儀、親王可有傳持之由、具載遺狀畢。然間去建武三年、天下忽大變、乾坤雖似改、巽好幽通、文券不朽。依之冥顯相扶、致門跡之領掌之間、任先規所申請官符也。矧亦門室相承之重書等、多以尊澄親王遠塚隨身、剩先年依道譽法師之濫惠及門跡煙塵之大難之刻、所殘之文券悉

以逢災火訖。當于此時、若不預紛失明證之風論者、卒可斷跡後代之狼嗶哉。望請天裁且任代代佳例、且察度度紛失、被成下官符宣者、將全門跡三寶之住持、奉祈國家萬歲之安寧矣。仍奉令旨以解。

康永三年七月 日

別當法眼和尚位行祐奉

九月十二日。石川郡白山宮莊嚴講勸進、明日を以て極樂坊に講衆を招集す。

【白山宮莊嚴講中記録紙背文書】

三二六

明日午刻於

極樂坊

可有御集來矣

見聞

貞澄權律師 禪幸權少僧都奉
立政權律師 奉 幸海權律師
理澄權律師 奉 善耀權律師
禪祐阿闍梨奉 信存阿闍梨
承覺權律師 禪支大德奉
連海大德奉